



4月 おいすか園だより

2020年4月1日発行

先月28日に卒園式が執り行われ、年長組の子どもたちが幼稚園を巣立っていきました。卒園式にはジャカルタ、日本の各所、広州とアジアの各地から出席者が集い、卒園生の語る夢を皆で共有して思いを馳せ、胸が熱くなりました。今月からはピカピカの1年生、新しい歩みを幼稚園から応援しています。

さて、オイスカ幼稚園は今年度よりインドネシア幼稚園教職員組合への教育研究支援を行うことになりました。子どもが園生活を通して深く思考するために、一人ひとりの心もちに共感し学びを支える日本型乳幼児教育の特質をセミナー等によりインドネシアの教職員の方々と分かち合い探究してまいります。教職員も子どもたちに負けないくらい、たくさん学んで大きくなる一年にいたします。



最後に、砂漠化したアラル海で植林を推進する、オイスカ国際カレッジの富樫智さんから届いた画像を紹介いたします。以前お伝えしました通り、富樫さんは上海のオイスカ幼稚園で事務のお仕事をなさっていた方です。コロナ禍の一時帰国後、先月中旬にウズベキスタンに戻られました。天文学者、小学校の先生、建築家、幼稚園の先生…先月の卒園式で卒業生が語った将来の夢は多様でした。いずれ富樫さんと

同じように農学博士になって地球規模で研究し行動する仲間が、ジャカルタ園からも出でくるかもしれません。二枚の画像を拡大して観察し、アラル海の砂漠化や現在の地球環境について、ご家族で調べて語り合っただければと思います。

今年度もみんなで一緒に、学びの旅に出かけましょう。



【4がつうまれのおともだち】

こ ★ ★ ★ ★ ★ 5か

★「おたんじょうかい」は4月25日ジャカルタ時間8時30分からです★
前日までにメールでご案内をさせていただきます。

【新入園児Hちゃんのお母さまのつぶやき】

去年の11月に、韓国からジャカルタにやって来ました。ジャカルタに来るにあたり、また新しい文化や人に触れることに、ドキドキ期待と大きな不安とが入り混じっていました。また新しい環境でやっていけるのか、とても怖がりて泣き虫な娘の事も心配で仕方が無かったです。そんな不安な中、幼稚園探しをしていた時にオイスカジャカルタが目にとまり、連絡をしてみたところ、事務局の方がとても親身に対応してくださり、メールのみでのやり取りでしたが、この幼稚園なら娘は大丈夫だろう！と韓国に居る時から決めていました。いざジャカルタの空港に降り立ってみたら、とても優しい暖かい空気が私たち家族を包んでくれて、娘も「なんか分からないけど、ジャカルタいいね～」とふと言っていたことを覚えています。幼稚園に行ってみると、やはり予想通りの素敵な園で、娘が恥ずかしそうにしながらも、嬉しそうにしていた姿を思い出します。りさ先生は、泣き虫で気難しい娘の気持ちを、とてもよく理解してくださっていて、いつも「大丈夫よ～」と優しく受け入れてくださり、娘は幼稚園が大好きです！園や園庭で、汗だくになりながら元気に走り回っている姿を見ると心底、安心します。まだまだ少ないですが、少ないからこそ、お互いに気遣いが出来るような、素敵なお母さん達との繋がりも、園を通じて得られています！日本もジャカルタも、コロナウィルスの予防接種が順調に進んでいるようですね。全世界のBorderが早く開き、世界中の皆さんがまた、世界中を自由に行き来できる日を心待ちにしながら、皆さんの健康を心から願っています。